



### お気軽にご利用ください

お年玉はがきの寄附金で  
リフト付きバスを配備

五月二十四日、障害者の皆さんの社会参加に利用してもらおうと、市社会福祉協議会に小型リフト付きバスが配備されました。  
このバスは、今年の四月八日に郵便局から贈られた「寄附金付お年玉付郵便はがき等の寄附配分金」二百七十七千円を基に、同協議会が五十四万九千円を加えて購入したものです。車いすの人でも安心して利用できるため、施設や病院への送迎など交通手段の一つとして、障害者の皆さんから気軽に利用してもらうことができます。



### お茶を通して礼儀作法も

白根地区公民館  
子供茶道教室

五月二十二日、お茶の作法を体験しながら礼儀も身に付けてもらうようと、白根地区公民館主催の「子供茶道教室」が、青年教育センターで開かれました。この教室は、来年の三月まで毎月第四土曜日を利用して九回行われます。  
参加したのは小・中学生とその保護者二十六人。中には「お茶を習うのは楽しい」と、毎年参加している子供も。三人の先生の指導で、この日はおじぎの仕方、歩き方などを習い、最後にお茶とお菓子をおいしそうにいただいでいました。



## 活気あふれる 伝統の祭り

平成11年新飯田祭り



六月十一・十二日、新飯田祭りが行われました。その歴史は古く、町を一巡する御神幸の行列や、暴れみこしで知られます。  
行列は、一つ一つが見ごたえのあるもの。先頭で悪魔を払う先払いを務める小川連の天狗舞や神楽舞は、力強くまたこっけいで、子供たちからお年寄りまで見る人を魅了します。続く大名行列は、さながら時代絵巻。途中でやっこがやりを投げ渡し合う妙技も見えます。鼻筋を白く彩り美しく着飾った稚児、高下駄を履いた天狗などの後、見物客にぶつかりそうになりながら町中を蛇行するみこしが続きます。  
夜、若衆の担ぐみこしが神明宮に着くころになると、境内は見物客で埋め尽くされます。行われるのは「舞込み」で、お宮にみこしを入れようとする担ぎ手と、入れまいとする見物客を押しつけ、勢い付けてお宮へと何度も駆け上がります。上で待ちかまえるやつこも、みこしを全力で押し返します。最後は突進したみこしがお宮にたれ込み、白熱した祭りは幕を閉じました。

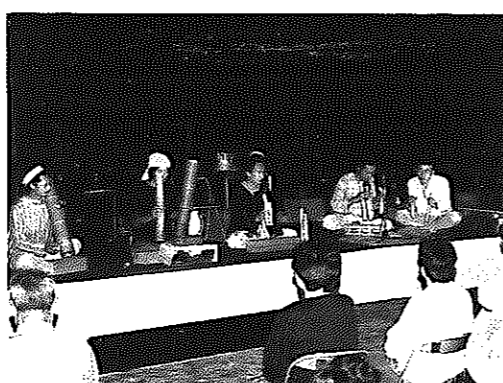
## TOPICS



### 二年連続で全国大会出場

ジュニア卓球チーム  
「白根アトム」

五月九日、カルチャーセンターで「全日本クラブチーム卓球選手権大会」、「全国ホープス大会」の県予選会が開催されました。  
この大会には市卓球連盟のジュニア卓球チーム「白根アトム」が出場。ホープス大会（小学生団体戦）男子の部で二年連続優勝するなどの好成績をあげ、七月三十・三十一日に長野と東京で開かれる二つの全国大会に五チームが出場することになりました。梅津監督は「予選リーグを勝ち抜き、ベスト8が目標です」と話しています。



### 月明かりに照らされて

茨曾根地区公民館  
音楽

五月二十九日、茨曾根地区公民館主催の野外コンサート「茨曾根音楽浴」が、同地区の農村公園で行われました。  
コンサートには、アフリカ民族音楽奏者の渡辺剛さん率いる「ジャミング」のメンバー五人が出演。前半では、渡辺さんが幻想的な音色のアフリカの木琴を使い、即興曲などを演奏。後半では、竹や木を使った自作の楽器で五人全員が演奏し、聴衆も立ち上がって手拍子を叩いたり、踊ったり。初めて聴く音楽にすっかり夢中になっていました。

## まちの話題

### 大風合戦を満喫

東京白根会が郷土訪問



六月五日から六日まで、白根市出身で東京近辺に在住する人を中心とする「東京白根会」（笹川周衛会長）の一行十八人が、白根市を郷土訪問しました。しるね大風と歴史の館で行われた歓迎セレモニーでは、竹内市長が「ふるさと白根へようこそ。ゆつくり眺めていってください」とあいさつ。市長や関係者らの歓迎を受けました。  
同館内を見学した後、いよいよ大風合戦会場へ。青空と北風に恵まれ、数々と繰り広げられる大風の名勝負に歓声を上げていました。

### 六畳大に夢をのせて揚がれ

子ども大風合戦



六月二日、中央公民館主催による子ども大風合戦が行われました。参加は二十八チームで、親子合わせて約千四百人。白根小の板谷和文君（六年生）が「正々堂々戦うことを誓います」と宣誓し、開戦しました。  
残念ながら今年は大風向きが悪く、風はすべて西側の土手から揚がることに。合戦を行うことはできませんでしたが、子供たちは自分たちで作った風が揚がると、嬉しそうに歓声を上げ、風を受ける風の重みを、綱を引く手に感じて元気に走っていました。